

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	寺子屋一休		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 19日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和8年 4月 1日		～ 令和8年 4月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体験型療育の為、「実際にやってみる中で自然に力が身につく」 ・実体験で理解しやすい ・コミュニケーション能力がつく ・社会性がみにつく ・個々に合わせた支援ができる	「できた」という経験が自己肯定感に繋がる 一番体験でわかりやすい農園活動を取り組みにしている。 長期休み等の昼食は購入する子が多い日は半分近くいる (お買い物体験をする事で自分の意思決定やお金の使い方がわかる)	さらに農園活動を主な活動に取り入れる。
2	ビジョントレーニング「見る力(視機能)」の強化 ・見る力の向上 ・学習面のサポート ・集中力、注意力の向上 ・日常生活の困り感の軽減 ・体の動きとの連動	ビジョニアセスメントトレーナーによる活動・保護者面談 子どもの発達段階に合わせてボール遊びや目で追う遊びを取り入れている。 日常生活の中でも視覚を使う場面を意識し、自然に力がつくように支援している。	現在、複数の職員がビジョントレーナーを持っているが全員の職員がビジョントレーナーの資格を習得し、ビジョニアセスメントトレーナーの人数を増やし、より専門的な支援を行えるようにする。
3	針を使った手芸活動を取り入れている。 縫物などの体験を通して指先の細かな動きや集中力を養うとともに、「自分でできた」という達成感や自信につなげていく。	工程一つひとつ確認しながら進めることで見通しをもって行動する力や落ち着いて取り組む姿勢も育まれる。 活動の際は安全面に十分に配慮し子供の発達状態に合わせて無理のない範囲で実施している。	針を使った手芸活動の充実を図る為に子供のひとり一人の発達段階や興味に応じた内容の工夫を行う。 段階的に取り組めるような療育の準備や成功体験を積み重ねられるようにする。 将来的にご家庭や余暇の時間にも楽しめる活動となることを目指している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所は2階に位置しており、階段の昇降が必要となる為、子供によっては負担や不安につながる場面がある。 環境面としては十分とはいえない。	階段が高い。雨の日に滑りやすい	職員の見守りや声掛けを徹底し、安全の配慮を行いながら安心してご利用頂く環境作りに努めている。 今年の6月に移転予定。
2	体験型の療育の為、子供一人ひとりに対し丁寧に関わる支援を行う為、スタッフの十分な確保が必要。	体験型を大切にしている為、より丁寧な関わりに向けた職員の体制が必要。	連携を強くしながら安心・安全な支援環境づくりに努めていく。
3	保護者様と情報共有において行き違いが生じる場面があり、より丁寧な連携が課題と認識している。	情報共有の行き違いは、連絡手段やタイミング、職員間の共有の差が要因。	情報共有の方法を工夫し、共通理解を深めながら安心してご利用頂ける関係づくりに努める。